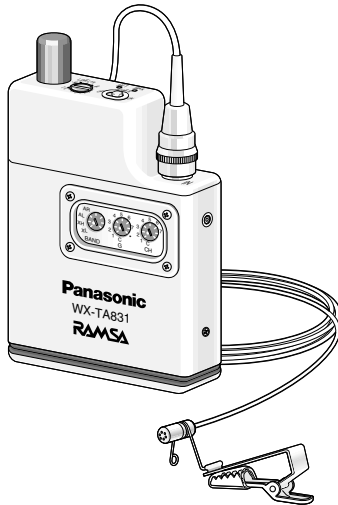


取扱説明書

ワイヤレスマイクロホン

品番 WX-TA831

RAMSA



技術基準適合証明品

上手に使うって上手に節電

陸上移動局免許申請対象品

保証書別添付

このたびは、ワイヤレスマイクロホンをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(7ページ~9ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

はじめに

商品概要

WX-TA831（以下、本機）は、主に800 MHz帯ワイヤレス受信機WX-R822（別売品）と組み合わせて使用するワイヤレスマイクロホンです。また、800 MHz帯ENG／EFPワイヤレス受信機WX-RJ800A、WX-RJX800A、WX-RJ700A、WX-RM770A（別売品）などと組み合わせて使用することもできます。

- PLLシンセサイザー方式の採用により、AX帯（FPU-2帯）71波・A帯（FPU-4帯）71波の合計142波から、希望する周波数を1波、選択できます。
- 本機は、ホール、イベント、演劇での仕込みに適した、音声収録用の2ピース仕込み型送信機です。
- 各種設定つまみを埋め込み式にして誤操作を防止しています。
- 小型ヘリカルアンテナは、従来機（WX-TA830）比2／3の高さを実現。邪魔にならないマイクコネクタ部の形状とあわせて、さらに仕込みやすくなりました。
- 本機運用時において、電池残量の目安を電源ランプの3段階表示（緑／橙／赤）によって確認することができます。WX-R822をご使用頂くことで、受信機で本機の電池電圧や電池残量（緑／橙／赤）を確認することができます。
- オリジナル開発のコンパウンダーICを採用し、伝送系の高ダイナミックレンジ、高音質を実現しています。
- 送信出力は、スイッチで10 mWと5 mWに切り替えることができます。5 mW設定は、複数のワイヤレスマイク運用時にお互いの干渉を軽減させるため、多チャンネル運用に効果を発揮します。
- 入力感度調節用のボリュームとピーク表示ランプにより、入力レベルを容易に調節することができます。

※ 本書に掲載している別売品の品番は、2006年5月現在のものです。

付属品をご確認ください

ラベリアマイクロホン	1個
ネクタイピン型マイククリップA（横型）	1個
ネクタイピン型マイククリップB（縦型）	1個
ウインドスクリーン（金網）	1個
ウインドスクリーン（ウレタン）	1個
ソフトケース	1個
ベルトケース	1個
電池ホルダー（予備）	1個
外部マイク用変換ケーブル（XLR-3-11C⇔KMC-9BPD-4P）	1本
調整ドライバー	1本
「技術基準適合証明証書」または「工事設計の認証取得済みのご案内」 ..	1枚
取扱説明書（本書）	1冊
保証書	1式

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ②お客様の故意や誤使用、不注意による障害または本商品の損傷など
- ③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうにかかわらず発生した一切の故障または不具合
- ④本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

（次ページへ続く）

はじめに (つづき)

- ⑥第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害
 - ⑦故意または偶然の結果、通話内容が第三者に傍受・漏えいすることによる不便・損害・被害
- 本商品の無線通話はアナログ方式を採用しており、傍受を抑止する機能はありません。故意または偶然の結果、第三者が傍受し、通話内容を知り得ることがあります。

用語について

本書では、以下の用語を用いて説明しています。

送信機

ワイヤレスマイクシステムにおける、電波を送信する機器の総称です。本書の中では、本機を含めたワイヤレスマイクロホンやワイヤレス送信機のことを指します。

受信機

ワイヤレスマイクシステムにおける、電波を受信する機器の総称です。

ワイヤレスアンテナ

ワイヤレスマイクシステムにおける、電波を受信するためのアンテナの総称です。WX-R822などの据置型の受信機では、別途ケーブルを使用して接続されるアンテナを指します。WX-RJ800AなどのENGワイヤレス受信機では、本体に取り付けられているフレキシブルアンテナを指します。

PLL (フェーズロックドループ) シンセサイザー方式

自動的に周波数のずれを修正し、安定して信号を送信する方式です。

バンド

本機が送信する電波の周波数帯域のことです。バンド切替スイッチで設定します。

本機では、FPU-2帯に対応するAX帯をXLバンドとXHバンド、FPU-4帯に対応するA帯をALバンドとAHバンドとし、4バンドからバンドを選択します。(31ページの「FPU (フィールドピックアップユニット) 帯域とバンドの関係」をお読みください。)

グループ

各チャンネルの送信周波数を、使用するチャンネル数に合わせてあらかじめ選択し、組み合わせたものです。使用目的や環境に合わせて選択します。

チャンネル

同一グループ内で、同時に送信可能な周波数に番号をつけたものです。1チャンネルに1周波数が割り当てられ、本機1台で、1チャンネルの電波の送信が可能です。単に周波数を数えるときは、1波、2波・・・と数えます。

多チャンネル

送信機を同時に8台以上使用する設定です。1つのバンドで同時に使用できるのは7波までのため、8波以上を使用する場合には複数のバンドを組み合わせる、多チャンネルを使用します。

多チャンネルの詳細は、受信機の取扱説明書をお読みください。

入力感度

音声入力コネクタから入力される音声信号のレベルは、接続されるマイクの種類によって異なります。このため、適度な入力レベルになるように入力感度を調節します。

トーン

受信機が送信機からの電波か外来ノイズかを判別するために、電波の中に含む特定周波数のことです。本機はRAMSAシリーズのトーンとして、32.927 kHzを送信電波に変調させています。

もくじ

はじめに

はじめに

商品概要.....	2
付属品をご確認ください.....	3
免責について.....	3
用語について.....	4
安全上のご注意.....	7
使用上のお願い.....	10
各部の名前と働き.....	13

使いかた

使いかた

音声入力コネクタの接続.....	15
乾電池を入れる／取り出す.....	16
電源を入れる／切る.....	17
電池残量を確認する.....	18
周波数を設定する.....	19
バンドを設定する.....	20
グループ・チャンネルを設定する.....	20
「7」グループについて.....	21
「・」グループについて.....	21
入力感度を調節／確認する.....	22
送信出力を切り替える.....	23

取り付け

取り付け

本機をベルトに装着する.....	24
マイククリップを取り付ける.....	25
ウィンドスクリーンを取り付ける.....	25

補足

補足

本機の状態を確認する（チェックモード）.....	26
電源ランプの表示について.....	29
ピーク表示ランプの表示について.....	30
お買い上げ時の設定について.....	31
FPU（フィールドピックアップユニット）帯域とバンドの関係.....	31
周波数表.....	32
故障かな!?.....	34
仕様.....	38
保証とアフターサービス.....	42

安全上のご注意

必ずお守りください

はじめに

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

屋外で使用のとき雷が鳴り出したら、体から離す



落雷の原因になります。

- ただちに使用をやめ、体から本機を遠ざけてください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因になります。

分解禁止

- 修理や点検は、販売店にご依頼ください。

安全上のご注意（つづき）

警告

電池は充電・分解・ショートしない



禁止

電池の破裂や液漏れにより火災、けが、やけどの原因になります。

航空機内では電源を切る



運行の安全に支障をきたす恐れがあります。

医用電気機器に近づけない (手術室、集中治療室、CCU※などには持ち込まない)



禁止

本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

- ※CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。

心臓ペースメーカー装着者は使用しない



禁止

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

心臓ペースメーカー装着者に配慮して、満員電車などの人混みでは電源を切る



本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

警告

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない



禁止

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

異常があるときはすぐ使用をやめる



煙が出る、においがするなどそのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに、販売店にご連絡ください。

注意

電池は極性（プラス＋とマイナス－）を正しく入れる



間違えると、電池の破裂や液漏れにより火災、けがや周囲を汚損する原因になります。

ニッカド電池は使わない



禁止

万一、内部が破損していた場合、発火の原因になります。

違う種類の電池や、新旧の電池は混ぜて使わない



禁止

電池の破裂や液漏れにより火災、けが、やけどの原因になります。

ぬれた手で使用しない



ぬれ手禁止



感電や故障の原因になります。

使用上のお願い

電波法に関してお守りください

本機のご使用にあたっては、電波法により陸上移動局の免許が必要ですので、**免許申請の手続きを行ってください**。免許申請の手続きについては、「特定ラジオマイク利用者連盟」のホームページなどをご覧ください。また付属の「技術基準適合証明証書」または「工事設計の認証取得済みのご案内」は、申請の際必要ですのでなくさないようにご注意ください。

また、免許の有効期間は最大で5年間、最小で4年間です。本機を継続して使用する場合は、免許の有効期間満了の日の6か月前から3か月前までの間に再免許申請を行ってください。期間内に再免許申請手続きができなかった場合は、新設申請となりますのでご注意ください。

 **警告**、 **注意**に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

ご使用にできない地域

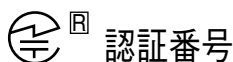
青森県三沢市、山口県岩国市およびそれらの周辺地域では、バンドをXL、XHでご使用になることができません。

海外でのご使用

海外で使用しますと各国の法律に違反する場合があります。

技術基準適合証明表示について

本機は、電波法で規定される技術基準適合証明品です。機器一台一台にその証明番号（証明表示：下図）が表示されています。みだりに剥がしたり、損傷しないでください。証明表示が剥がれた状態で使用することは法律で禁じられています。



違法改造しないでください

本機を分解したり、内部の部品にさわったりしないでください。改造することは法律で禁じられています。

取り扱い上のお願い

- 受信機はWX-R822、WX-RJ800A、WX-RJX800A、WX-RJ700A、WX-RM770Aなどで同じバンドのものを使用してください。
- パワーアンプ、ビデオモニター、測定器などの発熱の多い機器の上や、夏の閉め切った車の中に放置しないでください。保存はなるべく乾燥したところで行ってください。
- 水にぬれた場合はすぐに乾電池を抜いて、乾いた布でふいてください。
- 高精度の調整がしてありますので、強い衝撃を受けたり、床などに落としますと特性が変化することがあります。取り扱いには十分ご注意ください。本機に衝撃などが加わると受信機より衝撃音が発生しますので、衝撃を加えないようにしてください。
- 本機は、周囲温度0℃～+40℃の範囲でご使用ください。+10℃以下になりますと、使用電池の寿命は短くなりますので、動作時間などにご注意ください。
- 2週間以上使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 本機は防滴仕様ではありません。雨の中での使用や直接水のかかる場所では使用しないでください。故障の原因になります。
- 高所で使用する場合は、取り扱いに十分ご注意ください。落下すると、けがや製品の故障の原因になります。

上手な使いかた

クリック音の防止について

乾電池の交換、出し入れのときは、クリック音防止のためアンプやミキサーなどのボリュームをしばってから行ってください。

雑音のないきれいな音で聞くには

本機はワイヤレスアンテナとの距離を屋外は見通し距離約90 m、屋内は約30 mまで離してご使用になれます。雑音が多いときは、つぎの点にご注意ください。

- 雑音が入る場合は、できるだけワイヤレスアンテナに近づけてご使用ください。そのときの距離は2 m～10 mにしてください。なお、ワイヤレスアンテナから2 m以内に近づきますと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などをおこすことがあります。

使用上のお願い（つづき）

ご使用の際は

- 送信機同士の距離は50 cm以上離し、送信機と受信機との距離は2 m以上離してください。周波数の干渉により混信を起こすことがあります。
- 本機は、回転機、変圧器、自動車のイグニッション雑音の影響を受けにくい場所を選んで使用してください。
- 周囲に電波が反射するような構造物のないところでは、ワイヤレスアンテナを高いところに設置することにより、送信機からの電波を受けやすくなります。
- 送信機と受信機のあいだに、電波を吸収するコンクリートや大勢の人が入ると、受信レベルが低下し、到達距離が短くなります。

お手入れについて

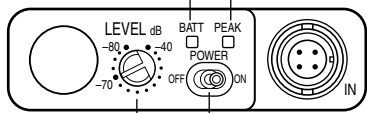
- 電源を切り乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 乾電池の電極や電池ホルダーの端子は汚れた手で触れないでください。接触不良やノイズの原因となります。

汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。

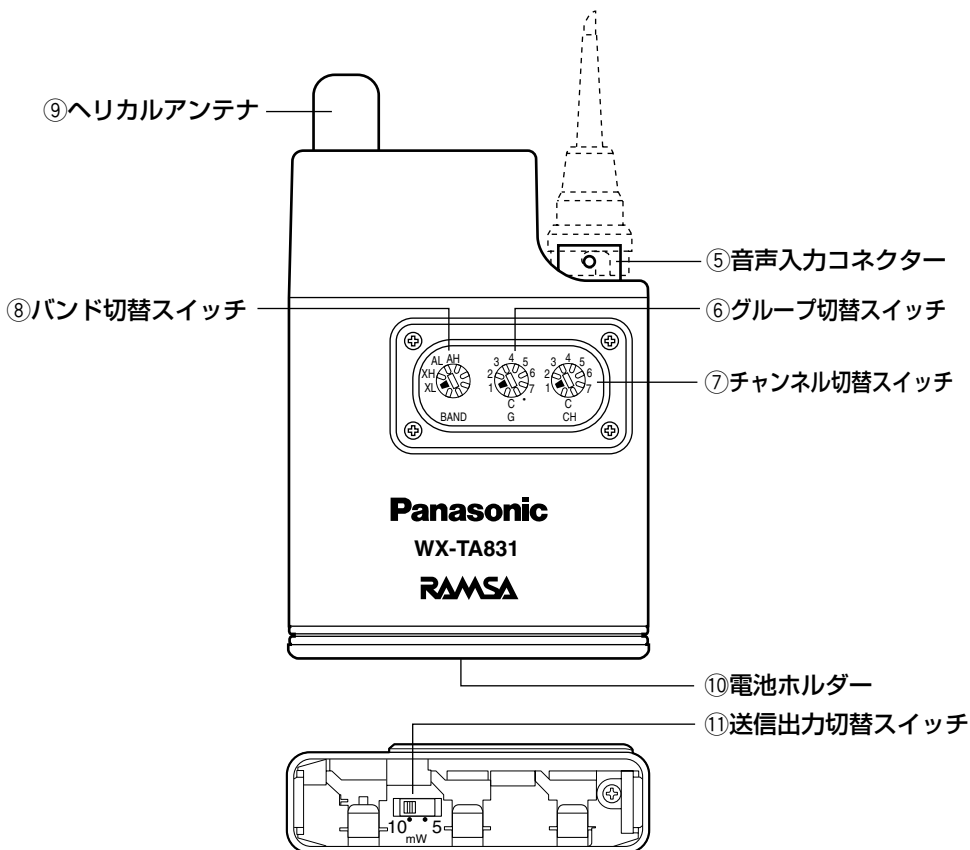
また、電池ホルダー外側の接触端子は汚れが付きやすいので、定期的（月に1回程度）にエチルアルコールでふいてください。ベンジンやシンナーなどの溶剤や金属磨きなどの研磨剤を使用すると、変形・変色やメッキがはがれてきますので、使用しないでください。

各部の名前と働き

③電源ランプ ④ピーク表示ランプ



②入力感度調節ボリューム ①電源スイッチ



<電池ホルダーを取り外した状態>

各部の名前と働き（つづき）

① 電源スイッチ [POWER]

本機の電源をON/OFFします。
(☞17ページ)

② 入力感度調節ボリューム [LEVEL]

音声入力の感度を調節します。
(☞22ページ)

③ 電源ランプ [BATT]

本機の電源ON/OFF状態や、本機の電池残量などを表示します。(☞18ページ)

④ ピーク表示ランプ [PEAK]

入力感度調節ボリュームで調節された音声入力のレベルを表示します。
(☞22ページ)

⑤ 音声入力コネクタ [IN]

付属品のラベリアマイクロホン、または外部マイク用変換ケーブルを接続します。

⑥ グループ切替スイッチ [G]

バンド切替スイッチ [BAND] で選択したバンドの中のグループを選択します。(☞20ページ)

⑦ チャンネル切替スイッチ [CH]

バンド切替スイッチ、グループ切替スイッチで選択したバンド、グループの中のチャンネルを選択します。
(☞20ページ)

⑧ バンド切替スイッチ [BAND]

使用する周波数のバンドを選択します。(☞20ページ)

⑨ ヘリカルアンテナ

電波を送信します。

⑩ 電池ホルダー

乾電池を収納します。

⑪ 送信出力切替スイッチ

送信出力10 mW/5 mWを切り替えます。(☞23ページ)

音声入力コネクターの接続

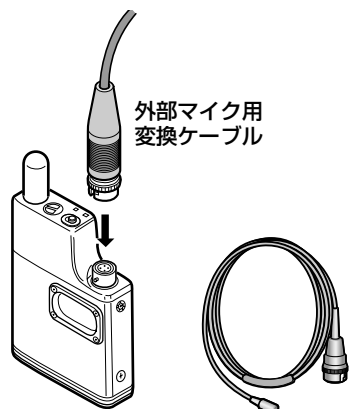
音声入力コネクターにラベリアマイクロホン（付属品）または外部マイク用変換ケーブル（付属品）を接続します。外部マイク用変換ケーブル（付属品）を使用すると、一般の有線マイクロホンを使用できます。

1 ラベリアマイクロホン、または外部マイク用変換ケーブルを音声入力コネクターに接続します。

- ケーブルを接続し、右に回してロックします。

2 ラベリアマイクロホン、または外部マイク用変換ケーブルを外します。

- ケーブルを左に回し、ロックを解除してから、取り外します。

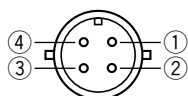


外部マイク用
変換ケーブル

ラベリアマイクロホン

使
い
か
た

<音声入力コネクターピン配列>

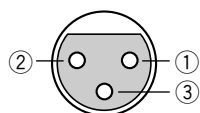


- ①ホット（コンデンサーマイクロホン用音声入力）
- ②ホット（一般有線マイクロホン用音声入力）
- ③+3.5 V
- ④シールド（GND）

（ ①、③、④：コンデンサーマイクロホン
②、④：一般有線マイクロホン ）

※ラベリアマイクロホン（付属品）はコンデンサーマイクロホンです。

<外部マイク用変換ケーブル XLR-3-11C側ピン配列>

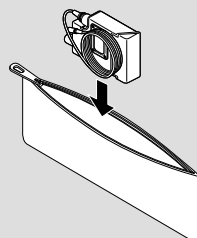


- ①シールド（③GNDと共通）
- ②ホット（一般有線マイクロホン用音声入力）
- ③GND

!!重要!!

- 本機を収納するときは、音声入力コネクター保護のため、ケーブルをできるだけ外さないで付属のソフトケースに収納してください。

※ケーブルを本機に巻き付けたり、不用意にねじったりして収納するとケーブルを痛めてしまうため、やめてください。

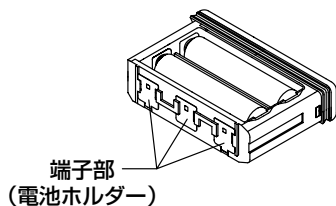


乾電池を入れる／取り出す

電源スイッチがONのときに乾電池の入った電池ホルダーを取り付け、取り外しする場合は、クリック音防止のため、アンプやミキサーなどのボリュームをしばってから行ってください。クリック音を発生させたくない場合などは、電源スイッチで電源を切ってから（次ページ）電池ホルダーの取り付け、取り外しを行ってください。

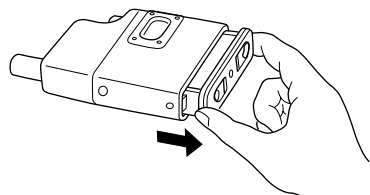
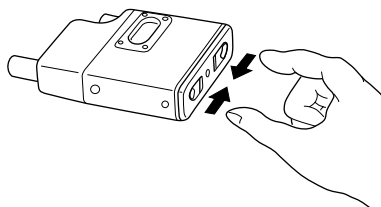
メモ

- 電池の電極や電池ホルダーの端子（右図）は汚れた手で触れないでください。接触不良や雑音の原因となります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。
- 電源スイッチがONの場合、乾電池の入った電池ホルダーを取り付けると、すぐに動作状態になります。使用しないときは、必ず乾電池を取り出してください。



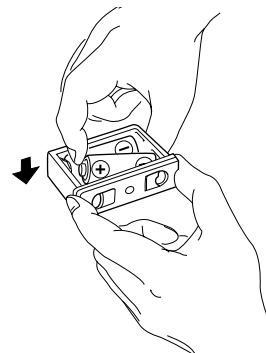
1 電池ホルダーを外します。

- 底面のつまみ2か所を内側にスライドさせると、電池ホルダーが手前に出てきます。そのまま引き抜いてください。



2 電池ホルダーに乾電池を入れます。

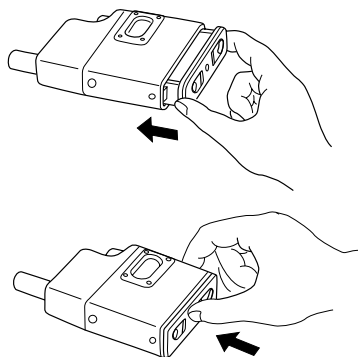
- 単3形乾電池2個を電池ホルダーの+、-の表示に合わせ、一側より挿入します。



3 電池ホルダーを元どおりに取り付けます。

- 電池ホルダーをカチッと音がしてロックするまで、しっかり押し込みます。

※電池ホルダーはどちらの向きでも取り付けることができます。



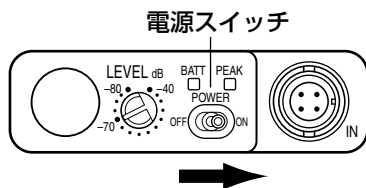
4 乾電池を取り出すときは、乾電池を入れるときと同じ手順で電池ホルダーを外し、乾電池を取り出します。

- 乾電池を取り出すときは、乾電池を一側に押しながら、+側から取り出します。

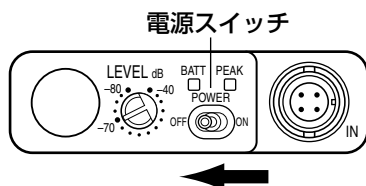
電源を入れる／切る

1 電源スイッチをONにします。

- ※電源スイッチをONにしてから音が出るまで2～3秒程度かかります。



2 電源を切るときは、電源スイッチをOFFにします。



!!重要!!

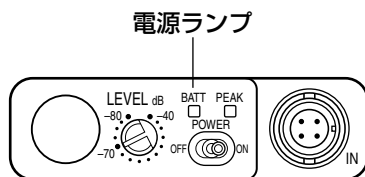
- 複数の送信機を同じ周波数に設定しないでください。本機の電源を入れたときにクリック音が発生し、スピーカーの破損や、過大な音量により耳を痛める原因になります。

電池残量を確認する

電池残量を確認します。電池残量の確認は電源が入っているときのみ行えます。電池残量は本機上面にある電源ランプの点灯色で確認できます。

- 緑色点灯：電池残量は十分にあります。
- 橙色点灯：電池残量が残り少なくなっています。
- 赤色点灯：電池残量が残りわずかです。早めに新しい電池と交換してください。

- 消灯：電池残量がありません。新しい電池と交換してください。



!!重要!!

- 電源ランプが点滅している場合は、設定が誤っているか、本機に異常が発生しているため使用できない状態であることを示しています。29ページをご確認ください。

メモ

- 電池の種類ごとに使用可能時間は変わりますので、下の表を目安にしてください。(松下電器産業株式会社製を常温(25℃)で連続使用した場合)

使用電池	電源ランプ	使用可能時間の目安
単3形アルカリ乾電池 (LR6G)	緑色	約3時間以上
	橙色	約3時間未満
	赤色	約30分未満
単3形オキシライド乾電池 (ZR6Y)	緑色	約3時間以上
	橙色	約3時間未満
	赤色	約30分未満
単3形マンガン乾電池 (R6PNB)	緑色	約1時間以上
	橙色	約1時間未満
	赤色	約15分未満

- 受信機にWX-R822を使用している場合、本機の電池残量、電池電圧を受信機で確認することができます。その際、受信機は送信機の種類にかかわらず、送信機の電池電圧を乾電池1セル単位に変換して表示します(本機では、乾電池2本直列接続の電池電圧を1/2にして表示します)。詳しくは、受信機の取扱説明書をお読みください。
- 本機は、電波を送信し始めてから約10秒後、その後1分周期および電池残量が変化したときに、本機の電池電圧情報を送信します。よって、本機または受信機の電源を入れた直後や、受信状態が悪い場合は受信機側での確認ができません。受信状態がよくなったことを確認し、1分程度経ってから、再度確認してください。

周波数を設定する

本機の周波数を設定します。本機の周波数は受信機と同じ周波数を設定します。受信機の設定は、受信機の取扱説明書をお読みください。

!!重要!!

- 周波数の設定は、電源スイッチがONのままでも可能ですが、クリック音防止のため、アンプやミキサーなどのボリュームをしぼってから行ってください。
- 電源スイッチがONのまま周波数の設定を変更した場合、変更してから音が出るまで2～3秒程度かかります。
- バンド切替スイッチ、グループ切替スイッチ、チャンネル切替スイッチは、クリックで止まる位置に設定してください。設定したあとは、同一周波数に設定した受信機で送信機の電波を受信できることを確認してください。
- 同時に複数の送信機をご使用になる場合は、本機も含めてすべての送信機を同じバンド、同じグループにし、それぞれの送信機をグループの中の違うチャンネルに設定してください。

また、となり合った125 kHz間隔の周波数は、お互いに影響することがありますので、100 m以内では使用しないでください。

- 「7」グループをご使用になる場合は、送信機間の距離に十分注意してご使用ください。詳しくは21ページをお読みください。
- 「・」グループ内では、異なるチャンネルにしても同時に複数の送信機を使用することはできません。詳しくは21ページをお読みください。
- すべての周波数表において周波数表示していないところにグループ・チャンネルを設定しても電波を送信できません。設定してしまったときは、電源ランプが点滅します。設定の前に、32～33ページの周波数表をお読みください。
- AL、AH、XL、XHバンドを同一場所で、同時に使用するときには多チャンネルの設定にして使用してください。多チャンネルの詳細は受信機の取扱説明書をお読みください。

周波数を設定する（つづき）

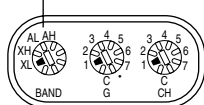
バンドを設定する

XL、XH、AL、AHのいずれかにバンドを設定します。バンドを設定するときは、付属の調整ドライバー（樹脂製）を使用してください。

1 バンド切替スイッチでバンドを選択します。

- 本機前面にあるバンド切替スイッチを回して、スイッチの▲の位置を設定したいバンド（XL、XH、AL、AH）に合わせます。

バンド切替スイッチ



メモ

- バンド切替スイッチは左へ回しきると、XLの位置で止まります。

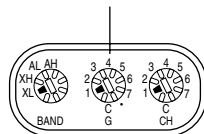
グループ・チャンネルを設定する

設定したバンドの中のグループとチャンネルを設定して、周波数を決定します。グループ・チャンネルを設定するときは、付属の調整ドライバー（樹脂製）を使用してください。

1 グループ切替スイッチでグループを選択します。

- 本機前面にあるグループ切替スイッチを回して、スイッチの▲の位置を設定したいグループ（1～7、・）に合わせます。

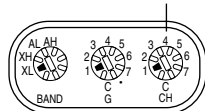
グループ切替スイッチ



2 チャンネル切替スイッチでチャンネルを選択します。

- 本機前面にあるチャンネル切替スイッチを回して、スイッチの▲の位置を設定したいチャンネル（1～7）に合わせます。

チャンネル切替スイッチ



メモ

- グループ切替スイッチ、チャンネル切替スイッチは、左へ回しきると、「1」の位置で止まります。
 - グループ切替スイッチ、チャンネル切替スイッチを、両方とも「C」の位置に設定したときは、チェックモードとして動作します。電波は送信しません。チェックモードについて、詳しくは26ページをお読みください。
-

「7」グループについて

「7」グループは、1～6グループの中から選定された周波数で構成されており、次の条件下で十分に注意して使用した場合は、7波の組み合わせが可能になります。

送信機出力	送信機間の距離	ワイヤレスアンテナと送信機の距離
5 mW	0.5 m以上離す	5 m以上離す
10 mW	1.0 m以上離す	10 m以上離す

「・」グループについて

「・」グループに設定するときは、同じバンドの中で複数の送信機を使用しないでください。混信が発生し、受信機にて正常に音声を受信できなくなる恐れがあります。ただし、多チャンネルの場合は、周波数表に従うことで、同時に複数の送信機を使用できます。多チャンネルの使用については、受信機の取扱説明書をお読みください。

入力感度を調節／確認する

入力感度調節ボリュームでマイクからの入力感度を調節します。

マイクの使用法、用途により入力感度が最適になるように、入力感度調節ボリュームを調節してください。

!!重要!!

- 入力感度調節ボリュームを操作するときは、付属の調整ドライバー（樹脂製）を使用してください。金属製ドライバーを使用すると、操作中にノイズが発生します。

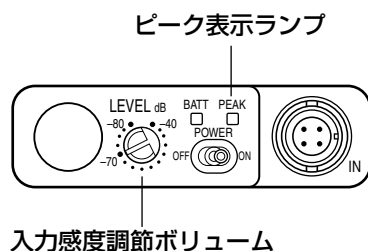
入力感度の目安として、下表を参考にしてください。

使用マイクロホン	入力感度調節ボリューム
付属マイクロホン	-70 dB付近
一般的なダイナミックマイクロホン	-75 dB付近
一般的なコンデンサーマイクロホン	-52 dB付近

1

入力感度調節ボリュームを調節します。

- 本機上部にある入力感度調節ボリュームを入力感度に合わせて調節します。左に回すと入力感が低くなり、右に回すと入力感が高くなります。
- 音声入力レベルが最大入力レベルを超えると出力音声が歪みます。ピーク表示ランプは、最大入力レベルに対する音声入力レベルを表示します。点灯の目安は下表のとおりです。



ピーク表示ランプ	音声入力レベル（最大入力レベルに対して）
赤色	0 dB～-6 dB
橙色	-6 dB～-12 dB
緑色	-12 dB～-45 dB
消灯	-45 dB未満

<ピーク表示ランプが頻繁に赤点灯する場合>

- 入力感度調節ボリュームを左に回して、ピーク表示ランプがときどき橙点灯するくらいを目安に設定してください。

<ピーク表示ランプがまったく点灯しない場合>

- ピーク表示ランプがまったく点灯せずに「サー」という雑音が多い場合は、入力感度調節ボリュームを右に回して、ピーク表示ランプがときどき橙点灯するくらいを目安に設定してください。

送信出力を切り替える

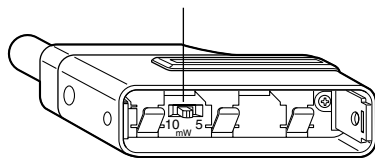
送信出力切替スイッチは本機の空中線電力を切り替えるためのものです。送信出力を5 mWまたは10 mWに切り替えます。5 mWに切り替えると、混信を起こしにくくすることができます。

1

電池ホルダーを外し (☞ 16ページ)、
送信出力切替スイッチを設定します。

- 電池ホルダー挿入部の奥にある送信出力切替スイッチを5 mWまたは10 mWのどちらかに切り替えます。

送信出力切替スイッチ



!! 重要 !!

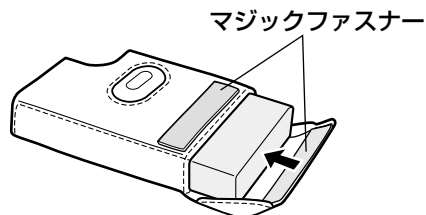
- 電池端子を押し曲げたり、汚したりしないようにご注意ください。
- 設定したら、電池ホルダーを元のとおりに取り付けます (☞ 17ページ)。

本機をベルトに装着する

まず、本機をベルトケースに取り付け、ベルトに取り付けます。

ベルトケースに取り付ける

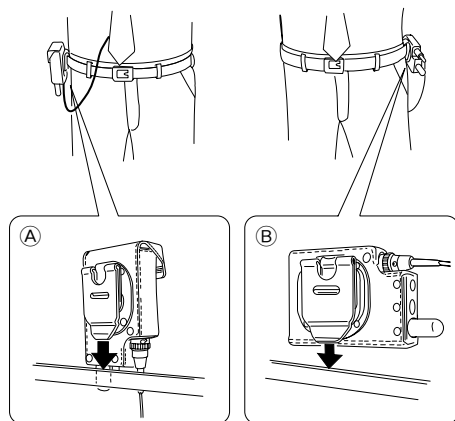
ベルトケースの底面を開け、本機を挿入します。



ベルトに装着する

本機はベルトケースに入れ、クリップでズボンのベルトに取り付けてご使用ください。

※ベルトケースのつまみを押すと、クリップが回転し、90°おきにロックしますので、使いやすい方向に設定してください。

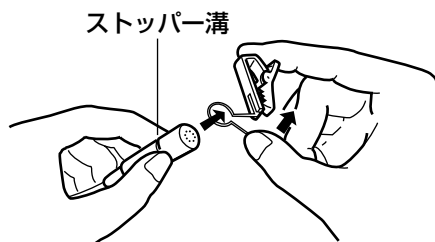


!!重要!!

- 装着する向きによっては、着席したときなど、アンテナやマイクのケーブルが椅子などに当たって断線などのトラブルの原因になります。運用の状況に応じて、適した向きに設定し、装着してください。
- 操作部に水がかかると、内部に水が侵入し、故障の原因になります。①図のように、操作面を下向きに装着することをおすすめします。
- 上図のように、ベルトの上方向から取り付け、ベルトに固定されていることを確認し、落下しないようにしてください。
- 高所で使用する場合は、取り扱いに十分ご注意ください。落下すると、けがや製品の故障の原因になります。

マイククリップを取り付ける

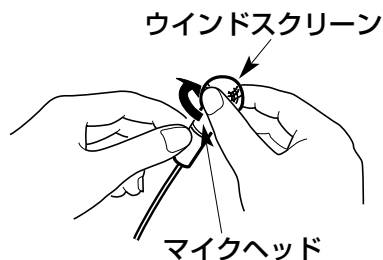
- 付属のネクタイピン型マイククリップは、たて型と横型の2種類がありますので、用途に合わせてご使用ください。クリップの取り付けはスプリング部分をつまみ、スプリング内径を広げてマイクヘッドのストッパー溝に合わせて取り付けてください。
- マイク部は、マイククリップでネクタイや襟などにとめてください。とめる位置はできるだけ口もとに近い方が、より明瞭な音質が得られます。
※マイクロホンに大きな音が連続的に入ると音がひずみます。



ウインドスクリーンを取り付ける

付属のラベリアマイクロホンを取り付けて本機を屋外、または風の多いところでご使用になるときは、必ずウインドスクリーンを取り付けてご使用ください。ウインドスクリーンの取り付けは、ウインドスクリーンの根元（樹脂部）を持って静かにマイクヘッドに挿入してください。

外すときも同様に、静かに抜いてください。



本機の状態を確認する (チェックモード)

チェックモードでは、電源ランプとピーク表示ランプの動作確認、送信出力切替スイッチの状態の確認、およびソフトウェアバージョンの確認ができます。

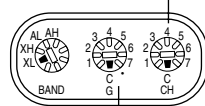
メモ

- チェックモード時、本機から電波は送信されません。
- 電源スイッチがONの状態グループ切替スイッチ、チャンネル切替スイッチの▲の位置を「C」に合わせてもチェックモードが起動します。
- チェックモード時、グループ切替スイッチとチャンネル切替スイッチを選択する周波数に合わせると、通常動作に戻ります。

1 電源スイッチをOFFにしてグループ切替スイッチとチャンネル切替スイッチを「C」に設定し、電源スイッチをONにします。

- 本機前面にあるグループ切替スイッチとチャンネル切替スイッチを回して、スイッチの▲の位置を「C」に合わせます。
- 電源スイッチをONにすると、チェックモードが起動します。(このとき電波は送信されません。)

チャンネル切替スイッチ



グループ切替スイッチ

2 電源ランプとピーク表示ランプで各種状態を確認します。

- 電源ランプとピーク表示ランプの表示のしかたで各種状態を表示します。各種状態は以下の順序で表示されます。
「電源ランプとピーク表示ランプの動作状態」 → 「送信出力切替スイッチの状態」 → 「ソフトウェアバージョン」

- 表示内容の詳細は以下のとおりです。

<電源ランプとピーク表示ランプの動作状態の確認>

以下の順番で電源ランプとピーク表示ランプが表示されるか確認します。点灯しない場合は、電源ランプ、ピーク表示ランプが故障していますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

- (1) 最初に電源ランプが0.5秒間、赤色に点灯します。
- (2) 次に電源ランプが0.5秒間、緑色に点灯します。
- (3) 次に電源ランプが1秒間、橙色に点灯します。
- (4) 次にピーク表示ランプが0.5秒間、赤色に点灯します。
- (5) 次にピーク表示ランプが0.5秒間、緑色に点灯します。
- (6) 次にピーク表示ランプが1秒間、橙色に点灯します。
- (7) その後1秒間、消灯します。

<送信出力切替スイッチの状態の確認>

送信出力切替スイッチの設定内容と一致しているか確認します。異なっている場合は機器に異常が発生していますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

- (1) 最初に電源ランプが0.5秒間の橙色点滅を3回繰り返します。
- (2) 次に5秒間、送信出力切替スイッチの設定によって以下のように表示します。

送信出力切替スイッチの設定	電源ランプ
10 mW	緑色点灯
5 mW	赤色点灯

※送信出力切替スイッチの設定を表示している間、ピーク表示ランプは赤色点灯になります。

(次ページへ続く)

本機の状態を確認する（チェックモード）（つづき）

<ソフトウェアバージョンの確認>

本機のCPUのソフトウェアバージョンを表示します。CPUのソフトウェアバージョンは、5けたの数値（Ver.x.xx.xx）で示され、その数値を電源ランプの点滅の回数でお知らせします。

- (1) 最初に0.5秒間の橙色点滅を4回繰り返します。
- (2) 次にソフトウェアバージョンの一番上位のけたの数値を、以下のように表示します。
0 : 0.5秒間の赤色点灯
1~9 : 0.5秒間の緑色点滅の回数
- (3) 次のけたの前に、1秒間の橙色点灯と0.5秒間の消灯が入ります。
- (4) 以降、残りの4けたも、上記の(2)と(3)の繰り返しになります。

ソフトウェアバージョンの確認が終わると、送信出力切替スイッチの状態の確認に戻り、以降は「送信出力切替スイッチの状態」→「ソフトウェアバージョン」が繰り返されます。

3

チェックモードを終了します。

- 電源スイッチをOFFにするか、グループ切替スイッチ、チャンネル切替スイッチの設定を「C」以外に切り替えるとチェックモードが終了します。

メモ

- 電源スイッチをOFFにしないでグループ切替スイッチ、チャンネル切替スイッチを切り替えた場合は、切り替えた設定内容で通常動作します。
-

電源ランプの表示について

電源ランプは、電池の残量または本機にエラーが発生していることを表示します。本機にエラーが発生している場合、電池残量は表示されず、電波の送信も行われません。電源ランプが示す機器の状態については、以下のとおりです。

メモ

- 使用する電池の種類によって、表示に対応する電池の残り時間が異なります。詳しくは18ページをお読みください。

電源ランプの状態	機器の状態	対応方法
緑色点灯	正常に電波を送信しています。 電池残量は十分にあります。	—
橙色点灯	正常に電波を送信しています。 電池残量が残り少なくなっています。(P.18ページ)	早めに電池を交換してください。
赤色点灯	正常に電波を送信しています。 電池残量が残りわずかです。 (P.18ページ)	至急電池を交換してください。
消灯	電源が切れているか、電池残量がありません。電波は送信していません。	お使いになる場合は、電池を交換するか、電源スイッチを確認してください。
赤色点滅 (4回または6回点滅の繰り返し)	本機内部のICに異常が発生しています。 電波は送信していません。	修理が必要です。お買い上げの販売店に確認してください。
赤色点滅 (2回点滅の繰り返し)	本機内部のメモリーに異常が発生しています。電波は送信していません。	修理が必要です。お買い上げの販売店に確認してください。
橙色点滅 (6回点滅の繰り返し)	周波数の設定が間違っています。電波は送信していません。	32～33ページの周波数表を確認し、正しく設定してください。
上記以外の点灯／点滅	チェックモードになっている可能性があります。	26ページの「本機の状態を確認する(チェックモード)」をお読みください。

ピーク表示ランプの表示について

ピーク表示ランプは、音声の入力レベルを点灯色でお知らせします。
ピーク表示ランプの点灯色については、以下のとおりです。

ピーク表示ランプの状態	機器の状態	対応方法
赤色点灯	最大入力レベルに対して0 dB～-6 dBの音が入力されています。	22ページの「入力感度を調節／確認する」をお読みのうえ、
橙色点灯	最大入力レベルに対して-6 dB～-12 dBの音が入力されています。	調節してください。
緑色点灯	最大入力レベルに対して-12 dB～-45 dBの音が入力されています。	
消灯	最大入力レベルに対して-45 dB未満の音が入力されています。	
上記以外の点灯／点滅	チェックモードになっている可能性があります。	26ページの「本機の状態を確認する（チェックモード）」をお読みください。

お買い上げ時の設定について

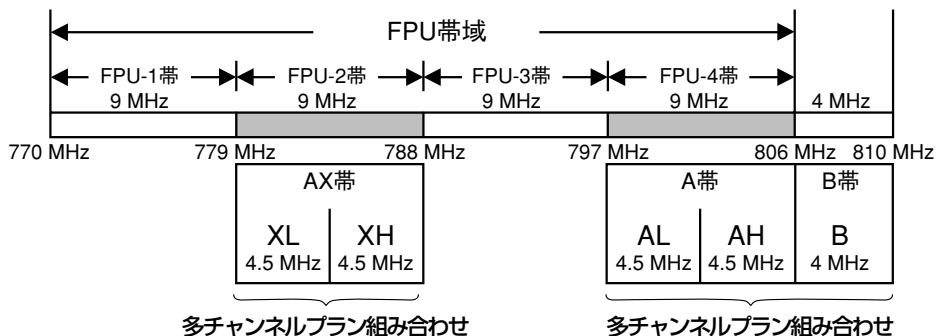
各種設定をお買い上げ時の状態に戻したい場合は、それぞれの操作スイッチを以下に従って設定してください。

なお、設定のしかたはそれぞれの操作の説明のページをお読みください。

スイッチ	設定範囲	お買い上げ時の状態
バンド切替スイッチ	XL、XH、AL、AH	XL
グループ切替スイッチ	1～7、・、C	1
チャンネル切替スイッチ	1～7、C	1
入力感度調節ボリューム	-80 dB～-40 dB	-70 dB
送信出力切替スイッチ	10 mW、5 mW	10 mW
電源スイッチ	ON、OFF	OFF

FPU (フィールドピックアップユニット) 帯域とバンドの関係

AX帯とA帯の各バンドは、FPU帯域において下図のように割り当てています。また、B帯は806 MHz～810 MHzの帯域です。



周波数表

AX帯 (FPU-2帯)

バンド	FPU-2帯 連番	バンド 連番	送信周波数 [MHz]	グループ								
				1 6波	2 6波	3 6波	4 6波	5 5波	6 1波	7 7波	• ※注	
Lバンド	1	1	779.125	L11							L71	
	2	1	779.250		L21							
	3	2	779.375	L12							L72	
	4	2	779.500		L22							
	5	3	779.625			L31						
	6	3	779.750				L41					
	7	4	779.875				L32				L73	
	8	4	780.000		L23							
	9	5	780.125	L13								
	10	5	780.250						L61			
	11	6	780.375			L33						
	12	6	780.500				L42				L74	
	13	7	780.625					L51				
	14	7	780.750	L14								
	15	8	780.875		L24							
	16	8	781.000				L43					
	17	9	781.125					L52				
	18	9	781.250			L34						
	19	10	781.375		L25			L53			L75	
	20	10	781.500			L35						
	21	11	781.625				L26	L54				
	22	11	781.750	L15								
	23	12	781.875					L44				
	24	12	782.000			L36						
	25	13	782.125				L45				L76	
	26	13	782.250		L16			L55				
	27	14	782.375									
	28	14	782.500									
	29	15	782.625									
	30	15	782.750				L46				L77	
	31	16	782.875									L1
	32	16	783.000									L2
	33	17	783.125									L3
	34	17	783.250									L4
	35	18	783.375									L5
	36	18	783.500									L6
Hバンド	37	1	783.625	H11							H71	
	38	2	783.750		H21							
	39	3	783.875	H12							H72	
	40	3	784.000		H22							
	41	4	784.125			H31						
	42	4	784.250				H41					
	43	5	784.375									
	44	5	784.500		H23		H32				H73	
	45	6	784.625									
	46	6	784.750	H13						H61		
	47	7	784.875				H33					
	48	7	785.000					H42			H74	
	49	8	785.125						H51			
	50	8	785.250	H14								
	51	9	785.375		H24							
	52	9	785.500				H43					
	53	10	785.625					H52				
	54	10	785.750			H34			H53			
	55	11	785.875									
	56	11	786.000		H25				H54		H75	
	57	12	786.125			H35						
	58	12	786.250									
	59	13	786.375									
	60	13	786.500	H15		H26						
	61	14	786.625					H44				
	62	14	786.750			H36					H76	
	63	15	786.875									
	64	15	787.000	H16								
	65	16	787.125						H55			
	66	16	787.250					H46			H77	
	67	17	787.375									H+1
	68	17	787.500									H+2
	69	18	787.625									H+3
	70	18	787.750									H+4
	71	19	787.875									H+5

●周波数表中の記号の読み方

例 L 2 1

↑ ↑ ↑

チャンネルを表します。
グループを表します。
「L」は「L」グループを
表します。
バンドを表します。
LはXL、HはXHを
表します。

- 「1」～「7」の同一グループの各チャンネルは同時に使用することができます。
- 「L」グループの各チャンネルは、同時に使用することはできません。「L」グループは、必ず1つのチャンネルを設定してください。
(※注：XLバンドは6波、XHバンドは5波)

A帯 (FPU-4帯)

バンド	FPU-4 番 通番	バンド 通番	送信周波数 [MHz]	グループ								
				1	2	3	4	5	6	7	•	
				6波	6波	6波	6波	5波	1波	7波	※注	
A バンド	1	1	797.125	L11							L71	
	2	2	797.250		L21							L72
	3	3	797.375	L12								
	4	4	797.500		L22							
	5	5	797.625			L31						
	6	6	797.750				L41					
	7	7	797.875					L32				L73
	8	8	798.000					L23				
	9	9	798.125	L13								
	10	10	798.250							L61		
	11	11	798.375				L33					
	12	12	798.500					L42				L74
	13	13	798.625						L51			
	14	14	798.750	L14								
	15	15	798.875		L24							
	16	16	799.000					L43				
	17	17	799.125						L52			
	18	18	799.250				L34					
	19	19	799.375						L53			
	20	20	799.500		L25							L75
	21	21	799.625			L35						
	22	22	799.750						L54			
	23	23	799.875		L26							
	24	24	800.000	L15								
	25	25	800.125					L44				
	26	26	800.250				L36					
	27	27	800.375					L45				L76
	28	28	800.500									
	29	29	800.625	L16								
	30	30	800.750					L46				L77
	31	31	800.875									L1
	32	32	801.000									L2
	33	33	801.125									L3
	34	34	801.250									L4
	35	35	801.375									L5
	36	36	801.500									L6
A H バンド	37	1	801.625	H11							H71	
	38	2	801.750		H21							
	39	3	801.875	H12								H72
	40	4	802.000		H22							
	41	5	802.125			H31						
	42	6	802.250				H41					
	43	7	802.375				H32					H73
	44	8	802.500					H23				
	45	9	802.625	H13								
	46	10	802.750							H61		
	47	11	802.875				H33					
	48	12	803.000					H42				H74
	49	13	803.125						H51			
	50	14	803.250	H14								
	51	15	803.375		H24							
	52	16	803.500					H43				
	53	17	803.625						H52			
	54	18	803.750				H34					
	55	19	803.875						H53			
	56	20	804.000		H25							H75
	57	21	804.125				H35					
	58	22	804.250						H54			
	59	23	804.375					H26				
	60	24	804.500	H15								
	61	25	804.625					H44				
	62	26	804.750				H36					
	63	27	804.875					H45				H76
	64	28	805.000	H16								
	65	29	805.125						H55			
	66	30	805.250					H46				H77
	67	31	805.375									H+1
	68	32	805.500									H+2
	69	33	805.625									H+3
	70	34	805.750									H+4
	71	35	805.875									H+5

●周波数表中の記号の読み方

例

Lチャンネルを表します。
 グループを表します。
 「•」は「•」グループを表します。
 バンドを表します。
 LはAL、HはAHを表します。

- 「1」～「7」の同一グループの各チャンネルは同時に使用することができます。
- 「•」グループの各チャンネルは、同時に使用することはできません。「•」グループは、必ず1つのチャンネルを設定してください。
 (※注：ALバンドは6波、AHバンドは5波)



故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときやわからないとき、この表以外の症状のときまたは工事に関係する内容のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	原因・対策	参照ページ
電源が入らない	● 乾電池は入っていますか? ➔ 乾電池を入れてください。	16
	● 電源スイッチはONになっていますか? ➔ 電源スイッチをONにしてください。	17
	● 電池ホルダーが外れていませんか? ➔ 電池ホルダーを再度入れ直してみてください。	16
	● 電池が消耗していませんか? ➔ 新しい電池と交換してください。	—
	● 電池の+と-の向きが間違っていないですか? ➔ 正しい向きに電池を入れてください。	16
電源ランプが点滅して いて使えない	● グループ切替スイッチとチャンネル切替スイッチは、周波数表で空欄のものを使用していませんか? ➔ グループ切替スイッチとチャンネル切替スイッチの設定を確認してください。	19~21、 29、 32~33
	● チェックモードになっていませんか? ➔ グループ切替スイッチとチャンネル切替スイッチの設定を確認してください。	26
	● 機器に異常が発生している可能性があります。 ➔ 点滅のしかたを確認して、機器に異常が発生している点滅ならば、再度電源を入れ直してみてください。それでも直らない場合は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。	29

症状	原因・対策	参照ページ
電源ランプ、ピーク表示ランプが点滅して使えない	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックモードになっていませんか？ ➔グループ切替スイッチとチャンネル切替スイッチの設定を確認してください。 	26
受信がまったくされない（受信機側で音声が出力されない、受信レベル表示が反応しない）	<ul style="list-style-type: none"> ●本機が送信する周波数と受信機が受信する周波数の設定は合っていますか？ ➔バンド、グループ、チャンネルの設定を、周波数表を参照しながら受信機と同じにしてください。受信機側の周波数設定については、受信機の取扱説明書を参照してください。 	受信機の取扱説明書
	<ul style="list-style-type: none"> ●バンド切替スイッチ、グループ切替スイッチ、チャンネル切替スイッチがクリックで止まる位置に設定されていますか？ ➔バンド切替スイッチ、グループ切替スイッチ、チャンネル切替スイッチの設定を確認してください。 	19~21
	<ul style="list-style-type: none"> ●WX-R822をお使いの場合、受信機に接続されているワイヤレスアンテナは本機で設定しているバンドと同じバンドのものでしょうか？ ➔設定しているバンドと同じバンドのワイヤレスアンテナを使用してください。 	受信機の取扱説明書
	<ul style="list-style-type: none"> ●受信機側システムの各機器間は、正しく接続されていますか？ ➔受信機側システムの接続とケーブルを確認してください。 	受信機の取扱説明書
	<ul style="list-style-type: none"> ●受信機側システムの中に、電源がOFFになっている受信機やワイヤレス混合分配器はありませんか？ ➔運用中は、システムのすべての機器の電源をONにしてください。 	受信機の取扱説明書

故障かな!?(つづき)

症状	原因・対策	参照ページ
混信する	●本機の近くに他の送信機がありませんか？ ➔他の送信機とは離してお使いください。	—
	●「・」グループで、複数の送信機を使用していませんか？ ➔他のグループをご使用ください。	21
	●本機の送信出力切替スイッチが「10 mW」になっていませんか？ ➔本機とワイヤレスアンテナの距離が十分に近いときは、「5 mW」に切り替えてください。	23
	●近くで別のワイヤレスシステムを使用していると、混信する場合があります。 ➔別のワイヤレスシステムの設定を確認し、使用周波数が重複しないように本システムのグループまたはチャンネルの設定を変更してください。	20
	●近くに高周波を使う機器や雑音源があると、混信する場合があります。 ➔本機とワイヤレスアンテナの距離を短くしてご使用ください。	—
音声が出ない	●本機のトーンに対応した受信機をご使用になっていますか？ ➔本機のトーンに対応した受信機をご使用ください。	受信機の 取扱説明書

症状	原因・対策	参照ページ
ノイズが止まらない	<ul style="list-style-type: none"> ●電池端子／電池電極が汚れていませんか？ →電池端子／電池電極を清掃してください。 	12
音切れする	<ul style="list-style-type: none"> ●本機の送信出力切替スイッチが「5 mW」になっていませんか？ →本機とワイヤレスアンテナの距離が離れている場合は、「10 mW」に切り替えてください。 ●WX-R822をお使いの場合、受信機に接続されているワイヤレスアンテナは本機で設定しているバンドと同じバンドのものですか？ →設定しているバンドと同じバンドのワイヤレスアンテナを使用してください。 	23
音が歪む、音が大きい、音が小さい	<ul style="list-style-type: none"> ●入力感度調節ボリュームの設定は、入力レベルに合わせていますか？ →入力感度調節ボリュームの設定を確認してください。 	22
受信機で、電池電圧・電池残量が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> ●電池電圧・電池残量表示対応の受信機を使用していますか？ →電池電圧・電池残量表示対応の受信機を使用してください。 ※本機、受信機の電源を入れた直後や、受信状態が悪い場合は、表示されないことがあります。 	受信機の取扱説明書

仕様

●本機

送信周波数	779.125 MHz~787.875 MHz 71波、 797.125 MHz~805.875 MHz 71波 合計142波中の1波（周波数表による）
電波形式	F8W
送信周波数偏差	$\pm 20 \times 10^{-6}$ 以内（ 25 ± 15 °C）
占有周波数帯域幅	110 kHz以下
使用電池	単3形アルカリ乾電池LR6G 1.5 V×2個 単3形オキシライド乾電池ZR6Y 1.5 V×2個 単3形マンガン乾電池R6PNB 1.5 V×2個
電源表示	電池残量約3時間以上で緑色点灯 電池残量約3時間未満で橙色点灯 電池残量約30分未満で赤色点灯 (松下電器産業株式会社製単3形アルカリ乾電池 LR6G、常温25 °C連続使用にて)
電池寿命	約14時間以上（松下電器産業株式会社製単3形アルカリ 乾電池LR6G、常温25 °C連続使用にて）
空中線電力	10 mW/5 mW
発振方式	水晶制御PLLシンセサイザー方式
変調方式	周波数変調方式（リアクタンス変調方式）
アンテナ形式	ヘリカルアンテナ
到達距離	ワイヤレス受信機WX-R822システムにて見通し距離 約90 m（屋外10 mW時）
最大変調感度	+10 dBV（[LEVEL] -40 dBにて）
最大周波数偏移	± 40 kHz FM以下
基準変調感度	-60 dBV（ ± 4 kHz FM、[LEVEL] -70 dBにて）
基準周波数偏移	± 5 kHz FM（-56 dBV入力、[LEVEL] -70 dBにて）
信号対雑音比	60 dB以上（Aカーブ、 ± 4 kHz FM、[LEVEL] -70 dBにて）
ダイナミックレンジ	100 dB以上（Aカーブ、 ± 40 kHz FM、[LEVEL] -70 dBにて）

ひずみ率	1.0 %以下 (±12.5 kHz FM)
音声信号処理	1/2対数圧縮 (2:1デシリアニア圧縮)
プリエンファシス	50 μsec
周波数特性	30 Hz~15 kHz
入力インピーダンス	約3 kΩ、不平衡
入力コネクタ	KMC-9BRF-4Sシリーズ (4ピン ヒロセ電機製)
音声入力レベル表示	最大入力レベル (最大変調入力) に対して 0 dB~-6 dBで赤点灯 -6 dB~-12 dBで橙点灯 -12 dB~-45 dBで緑点灯 -45 dB未満で消灯
トーン信号	32.927 kHz (±1.8 kHz FM)
制御信号伝送方式	トーン信号によるASKデータ伝送方式
制御信号	電池電圧、電池残量 (3段階)
使用温度範囲	0 °C~+40 °C
寸法最大径	幅64 mm 高さ90 mm 奥行き18 mm (突起部含まず)
質量	約160 g (乾電池含む)
仕上げ	ライトシャンパンゴールド色塗装

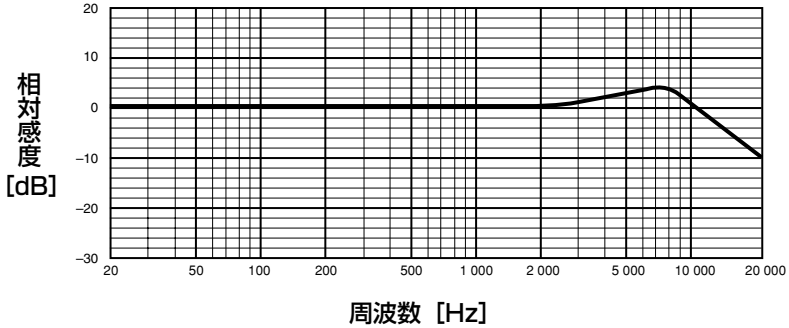
●付属小型マイクロホン

方式	バックエレクトレット・コンデンサー型
指向性	無指向性
マイクロホン感度	-40 dBV±3 dB (0 dB=1 V/Pa)
最大入力音圧	130 dB SPL
外形	カプセルφ6×12 mm、ケーブル長約1.5 m

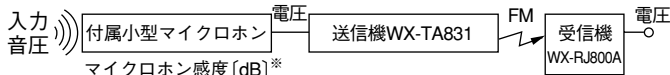
仕様 (つづき)

周波数特性

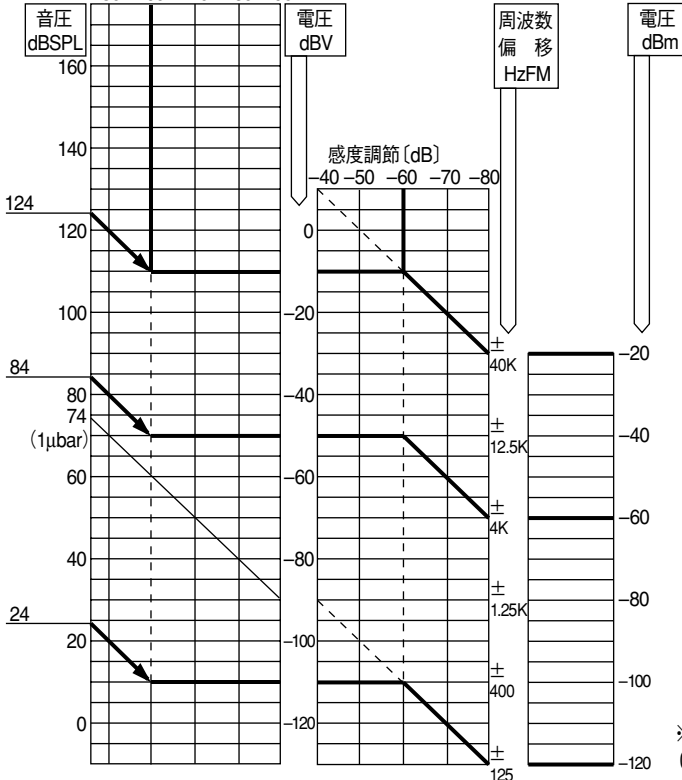
付属小型マイクロホン特性



レベルダイヤグラム



マイクロホン感度 [dB]*
-50 -60 -70 -80 -90



※ 1 μbar 音圧時の出力電圧
0 [dBV] = 1 VRMS

補足

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このワイヤレスマイクロホンの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

34～37ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、電源スイッチをOFFにしてから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。

修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容	
製品名	ワイヤレスマイクロホン
品番	WX-TA831
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お買い上げ日	年 月 日	品番	WX-TA831
販売店名	電話 ()		—

松下電器産業株式会社

ブロードメディア本部

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410